

友枝昭世

ともえだあきよ



日本経済新聞創刊百五十周年記念

第二十回 日経能楽鑑賞会

主催：日本経済新聞社

150th
NIKKEI
For a better world

観世鍔之丞

かんぜてつのはしやう



令和8年
6月8日(月)
午後6時開演(午後5時30分開場)
国立能楽堂

狂言
才宝
野村 萬
(和泉流)

能
枕慈童
友枝昭世
(喜多流)

令和8年
6月17日(水)
午後6時開演(午後5時30分開場)
国立能楽堂

仕舞
知章
武田祥照
船弁慶
武田友志

狂言
二千石
野村 万作
(和泉流)

能
大原御幸
観世鍔之丞
(観世流)

前売開始◆令和8年3月4日(水) 10:00a.m.から

入場料◆ 各日 S席=10,000円 A席=8,000円 B席=7,000円 C席=6,000円(税込、全指定席)
2公演セット券 S席=19,000円 A席=15,000円 B席=13,000円 C席=11,000円(税込、全指定席 S・A・B席各36セット、C席10セット)

※2公演セット券は日経公演事務局のみで取り扱います。

前売◆チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード:540-530) / 日経公演事務局 ☎03-5227-4227 (平日の10:00~18:00)

※やむを得ぬ事情により出演者等が変更となる場合があります。※未就学児のご入場はできません。

お問い合わせ◆日経公演事務局 ☎03-5227-4227 (平日の10:00~18:00)

公式サイト◆
<https://art.nikkei.com/event/4768/>



二〇〇七(平成十九)年、喜多流の友枝昭世と観世流の故浅見真州という、異なる流派の名手が同じ曲目を演じ合う形式で始まった「日経能楽鑑賞会(日経能)」は今年で二十回目を迎えます。

第二十回公演として、友枝昭世の十年振りの出演が決定。観世流の観世鏡之丞とともに記念公演を彩ります。

「枕慈童」(六月八日、友枝昭世)は、古代中国の仙境、不老長寿の薬「菊の露」を飲んで七百年も生きてきた慈童が舞う、美しく、幻想的で神秘的な能です。

「大原御幸」(十七日、観世鏡之丞)は、『平家物語』を典拠とし、平家の滅亡を目の当たりにした徳子(建礼門院)が語るこの世の無常を描きます。

狂言は第一回目から続く野村萬、野村万作という共に人間国宝の兄弟がそれぞれ「才宝」、「二千石」を上演。「才宝」は祖父と孫三人によるめでたい祝言曲、「二千石」は都ではやる謡にまつわる逸話や因縁を語る軽妙な曲です。

六百五十年以上もの間に磨きぬかれ、舞・劇・音楽・詩などの諸要素が交じりあった現存世界最古の舞台芸術たる「能楽」。その世界で確固たる地位を築いている現代最高峰の能楽師による本公演は、「日経能楽鑑賞会」の第二十回目「そして」日本経済新聞創刊一五〇周年記念」として開催します。

日本経済新聞社

6月8日(月)

狂言(和泉流)
才宝

シテ(祖父) アド(孫) 小アド(孫) 次アド(孫) 後見

野村万之丞 野村拳之介 野村真之介 野村万蔵

能(喜多流)
枕慈童

シテ(慈童) ワキ(勅使) ワキツレ(従者) ワキツレ(従者)

友枝昭世 宝生朝哉 宝生朝哉 渡部葵

友枝真也 佐々木多門 内田成信 大島輝久

金子敬一郎 長島茂 香川靖一 野村一

6月17日(水)

狂言(和泉流)
二千石

シテ(主) アド(太郎冠者) 後見

野村万作 野村萬斎 飯田豪

能(観世流)
大原御幸

シテ(建礼門院) ツレ(後白河法皇) ツレ(阿波ノ内侍) ツレ(大納言ノ局) ワキ(万里小路中納言) ワキツレ(大臣) ワキツレ(奥昇) ワキツレ(奥昇) アイ(従者)

観世鏡之丞 坂井音雅 観世淳夫 鶴澤光 宝生朝哉 宝生朝哉 野口能弘 渡部葵 野村裕基 杉市和 杉和鼓堂 山本哲也

小早川康充 小早川泰輝 武田宗典 武田文志 浅井正隆 浅井文義 浅見慈一

狂言 才宝

めでたい「才宝」という名の祖父を持つ三人の孫が、成人になるに際し、名前を付けてもらおうと、連れ立って祖父を訪ねます。祖父は孫の来訪を喜び、三人それぞれに相思しい名前を付け、めでたい盃事がはじまる。

狂言 二千石

都見物から帰った太郎冠者が、主人に都で流行っているという謡を披露する。すると主人はたちまち機嫌が悪くなり、「その謡は家に伝わる源家ゆかりの大事な謡だ」と語り、軽々しく謡った太郎冠者を懲らしめようと太刀を振り上げるが...

能 枕慈童

古代中国・魏の時代、酈縣山(つげんざん)の麓に薬の水が湧き出るといふ噂を聞いた文帝は勅使を派遣する。水源を求めて酈縣山の山中に分け入った勅使は、菊が咲き乱れる庵でひとりの美少年に出会う。名を尋ねると慈童と答え、今から七百年前の周の時代、穆王に愛され仕えていたが、王の枕を誤って踏み越えてしまったためにこの山に流罪となつていっている。流されるとき、穆王から法華経の偈が記された杖を下賜され、その偈文を菊の葉に書き写したところ、葉からこぼれる露が不老長寿の薬となつて、以降七百年の間、不老長寿のことなくそのままの姿でこの地に住んでいるという。慈童は、法華経の功德と由来を説きながら美しい舞を見せて、不老不死の長寿を文帝に捧げた後庵へと姿を消すのであった。

能 大原御幸

壇ノ浦の戦いで、平清盛の娘であり高倉帝の中宮であった平徳子は、幼い我が子・安德帝とともに壇ノ浦の海へ入水したが、自分だけ救出され命を長らえる。戦いの後、徳子は出家し、建礼門院と名を改め、京都の大原寂光院に隠棲し、大納言の局、阿波の内侍とともに、安德帝や平家一門の菩提を弔っていた。ある日、建礼門院と局が仏前に供える櫛を摘みに出かけているところへ、後白河法皇が慰問に訪れる。やがて建礼門院らが山から戻り、法皇と久しぶりに再会し昔を偲ぶ。法皇が安德帝の最期について尋ねると、建礼門院は安德帝が祖母の二位殿に導かれて入水したことを語る。

友枝昭世
ともえだ・あきよ



喜多流シテ方。一九四〇年、肥後熊本、加藤家・細川家のお抱え能役者の本座・友枝家に友枝喜久夫の長男として、東京に生まれる。一九四六年、能楽シテ方喜多流十五世宗家喜多実(師事。一九四七年、「鞍馬天狗」花見にて初舞台を踏み、一九五〇年、「西王母」で初シテを勤める。一九九五年、芸術選奨文部大臣賞受賞。二〇〇〇年、春の紫綬褒章受賞。二〇〇三年、日本芸術院賞受賞。二〇〇八年、重要無形文化財として各個認定(人間国宝)を受ける。二〇一一年、日本芸術院会員。二〇二〇年、旭日中綬章受賞。

観世鏡之丞
かんせ・てつじょう



観世流シテ方。八世観世鏡之丞静雪(人間国宝)の長男として東京に生れる。伯父観世寿夫および父に師事する。一九六〇年、四歳で初舞台。一九六四年「岩船」で初シテを勤める。二〇〇二年、九世鏡之丞を襲名。二〇〇八年、平成二〇年度(第六五回)日本芸術院賞受賞。二〇一一年、紫綬褒章を受賞。江戸時代後期より続く観世鏡之丞家の当主として、また演能団体鏡仙会の棟梁として重責を担う。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人鏡仙会代表理事。公益社団法人能楽協会理事長。

会場: 国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1

【交通案内】 JR中央・総武線「千駄ヶ谷」駅下車 徒歩5分
地下鉄大江戸線「国立競技場」駅下車 徒歩5分
地下鉄副都心線「北参道」駅下車 徒歩7分

